

研究題目 甲虫および訪花性昆虫類データベース
 所属機関名 国立大学法人 九州大学大学院農学研究院
 代表研究者氏名 多田内 修

1. 研究の進捗状況、成果の現状と今後の見込み(概要)

重点分類群の一つである昆虫について、とくにデータベース化に対する要求の高い甲虫と訪花性昆虫類を対象に、重要コレクションを擁する複数の研究機関が協同しながら、タイプ標本だけでなく一般標本について、画像情報も含む標本データベース構築した。

1-1. 当初の計画

18年度より JST の事業として「生物多様性情報データベース構築フェージビリティ・スタディー (FS)」を2年間行い、実績をあげてきている。20年度は、これまでの3研究機関に加え、(独) 農業環境技術研究所・農業環境インベントリーセンターを加え4研究機関とし、甲虫類2.5万件、ハチ類8000件のデータ入力为目标設定した。

1-2. 上記に対し、見直した点

設定目標の甲虫類2.5万件、ハチ類8,000件のデータ入力に対し、甲虫類54,899件、ハチ類41,997件を入力した。年度途中で特に見直した点はない。

1-3. 今後の見込み

画像を含むタイプ標本等のデータ入力の場合には、入力にかなり時間がかかる。そのようなデータ入力の場合には今後目標設定数を少なめにする必要があるが、全体としては計画以上に実施の見込みである。

2. 作成データについて

当初計画に対し、研究機関により目標設定数を達成できなかった機関も生じたが、総計では、目標設定数を大幅に越える件数を入力できた。目標を達成できなかった機関は、初年度で準備対応が遅れた(農業環境インベントリーセンター)、昨年までのデータの見直しに時間をかけた(北大)などがある。来年度は入力件数の増加を要請する。

生物分野	標本所有機関	標本所有数(概数)	データ源	表現形式	H20年度作成データ数(日本語、英語)(予定)	H20年度作成データ数(日本語、英語)(実績)	H21年度作成データ数(日本語、英語)(予定)	課題終了時のデータ数(日本語、英語)(予定)
甲虫	九州大学(博物館含む)	750,000	一般標本 タイプ標本	文字、画像	英語：10,000件	英語：27,638件	英語：10,000件	英語：58,000件
	北海道大学	200,000	タイプ標本	文字、画像	英語：2,000件	英語：1,775件	英語：2,000件	英語：9,000件

	愛媛大学	220,000	一般標本 タイプ 標本	文字、画像	英語：8,000件	英語：24,364件	英語：8,000件	英語：45,000件
	農業環境イン ベンタ リーセ ンター	200,000	一般標本 タイプ 標本	文字	英語：5,000件	英語：1,122件	英語：3,000件	英語：20,000件
ハチ	九州大学	800,000	一般標本 タイプ 標本	文字、画像	英語：8,000件	英語：41,997件	英語：8,000件	英語：64,000件

3. データ項目について

GFIB プロジェクトの標準項目 Darwin Core に対応したデータ入力を行った。

4. データのクオリティ・コントロールについて

各分類群の専門家の同定ラベルの付いた標本を扱い、外国産の標本等で種名まで同定されていない場合でも、専門家による属の同定された標本をデータとして扱った。入力済みのデータについては専門の各分担者がチェックし、昨年度提出済みのデータについてもその後見直しの結果修正箇所を発見したデータについては再提出する。

5. 課題終了後の運用について

(1) 運用体制

19年度 GBIF にデータを提供した後、20年度に自研究機関（九州大学総合研究博物館）からデータベースを試験公開した。<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/DB/dbindex.html>

(2) データの追加・更新体制

データベースの持続的な利用可能性を担保するため、自研究機関（九州大学総合研究博物館）では別途予算でデータの追加・更新を行った。

6. 他機関、学会等との連携について

当初計画は「このプロジェクトが軌道に乗った段階で、関連する学会や団体に呼びかけ、国内に存在する甲虫類を中心とした昆虫標本のデータベース化を推進する。」としている。データベース化は予算獲得に大きく依存するため、代表者が現在採択実施中の科研費基盤(A)および科研費研究成果公開促進費(データベース)については、各分担者からのデータの多くを本課題のデータに加えて、GBIF に提供している。

8. データ公開について

8-1. データ公開の問題点について

GBIF には18年度、19年度にデータを提供済みである。20年5月より自機関（九州大学総合研究博物館）のデータベースに追加ファイルとしてデータを試験公開した。また、九州大学農学研究院昆虫学データベース（KONCHU）から21年度より、公開を計画している。

8-2. システムの改修について

自機関（九州大学総合研究博物館、九州大学農学研究院）のいずれも、既存の公開データに追加するファイルなので、システム上問題はないと考える。

9. 推進体制

代表研究者	多田内修、九州大学大学院農学研究院、教授 担当：総括、ハナバチ類データベース構築
参加研究者 (自機関・他機関を含む)	丸山宗利、九州大学総合研究博物館、助教 担当：九州大学所蔵コウチュウ類データベース構築 (以下連携先参加者) 吉澤和徳、北海道大学農学部昆虫体系学教室、助教 担当：北海道大学所蔵コウチュウ類データベース構築 大原昌宏、北海道大学総合博物館、准教授 担当：北海道大学所蔵コウチュウ類データベース構築 酒井雅博、愛媛大学農学部環境昆虫学研究室、教授 担当：愛媛大学所蔵コウチュウ類データベース構築 吉武 啓、独法農業環境技術研究所、農業環境インベントリーセンター 研究員、 担当：農業環境インベントリーセンター所蔵コウチュウ類データベース 構築
雇用等を希望する アルバイト等	アルバイト 23名（担当：データ入力） 当初10名の計画であったが、23名を雇用した。主として学生を雇用するため、各研究機関で週、月等で雇用時間の制限が定められており、追加雇用せざるを得なかった
アドバイザー委員会	なし
ワーキンググループ	なし

10. スケジュール

	H20 年度	H21 年度	H22 年度
データ作成・入力	△ 同定		→
試験公開 ※1	→ → 自機関（九大博物館）		
公開 ※1		→ GBIF 日本ノード 自機関（九大）	→
その他 ※2	△ 会議		